

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02370

研究課題名(和文)近世ユーラシアにおける宗教・交易ネットワークとアルメニア人

研究課題名(英文)Armenians in the Early Modern Period

研究代表者

守川 知子(Morikawa, Tomoko)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授

研究者番号：00431297

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：近世期来のアルメニア人コミュニティや史料が残る地域を中心に現地調査を行い、そこで得られた知見をもとに、2021年5月に国際会議ICES65において、本研究メンバー全員がパネル・シンポジウムにて口頭報告を行った。また、英文学術雑誌Acta Asiatica 123(2022)にて、近世のアルメニア人商人に関する特集を組み、トランシルヴァニア、アルメニア、イラン、ベンガル湾、ジャワ島でのアルメニア人商人の活動について、多言語の一次史料を用いて実証的に論じた。結果、彼ら自身が積極的に世界各地に進出し、在地社会やそこで活動する人々と折り合いをつけながら、地域社会に溶け込んでいった様子を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世期のアルメニア人のグローバルな商業活動について、従来の「ディアスポラ」研究に見られるような消極的な移住ではなく、積極的に世界各地に進出し、折り合いをつけながら根付いていった点を明らかにしたことは、グローバル化の進んだ複雑な現代社会に生きる我々にとっても重要な示唆を与える。また、一次史料に依拠した実証研究から得られた本研究の英語による発表は、国際的にも学術的にもきわめて意義のあることである。

研究成果の概要(英文)：Based on the research surveys we conducted abroad, all five members of this research project gave presentations at the panel symposium "Armenian Communities and Their Global Network from the Seventeenth to the Early Twentieth Centuries" at the 65th International Conference of Eastern Studies in May 2021. In addition, a special issue on "Armenian Merchants and Their Communities in Early Modern Eurasia" was published in Acta Asiatica (Vol. 123, August 2022) in English. The activities of Armenian merchants in Transylvania, Armenia, Iran, the Bay of Bengal, and Java were empirically discussed using primary historical sources in multiple languages. As a result, the study reveals how they themselves actively entered into various parts of the world and integrated themselves into local communities, collaborating with people there.

研究分野：西アジア史

キーワード：アルメニア人 マイノリティ ネットワーク 近世 ユーラシア 宗教 交易 コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

アルメニア人は、最初にキリスト教を国教とした人々として名高く、コーカサス地方から東アナトリアにかけて独自の国家を有していた。だが、その立地ゆえに、古くはサーサーン朝（224-651）とビザンツ帝国（395-1453）の緩衝地として、その後もサファヴィー朝（1501-1736）とオスマン朝（1299-1922）の係争地として大国に翻弄され、19世紀末や第一次世界大戦中のオスマン帝国下で起こった「アルメニア人ジェノサイド」に見られるように、つねに政治的・宗教的マイノリティとして扱われてきた。このようなアルメニア人の歴史的転換点のひとつは、サファヴィー朝とオスマン朝の対立激化を背景とした17世紀初頭のサファヴィー朝の首都イスファハーンへのアルメニア人たちの強制移住である。彼らはイスファハーンのアナトリア人居住区「新ジュルファー」を本拠に、王室御用商人としてサファヴィー朝の生糸独占権と信仰の自由を保障され、17世紀にはインド洋海域世界からマニラ、広東、ヨーロッパのアムステルダムやロンドンにまで拠点をもつ裕福かつ才覚のある「国際商人」として活躍した。

世界各地に散らばったアルメニア人の移住は、これまでの研究では「ディアスポラ（離散）」として消極的に捉えられてきた。また国内外を問わず、アルメニア人にかかる研究は、近現代の「ジェノサイド」に象徴される被虐的な歴史観を強く主張する傾向にあり、日本では特に、「マイノリティ」「ディアスポラ」「渡海者」などの具体性を欠いたイメージ論に終始している。しかし近年、海域史研究の高まりとともに、アルメニア人の17～18世紀の交易活動に関する研究が盛んになり、海外ではアルメニア人自身による再評価も見られるようになってきた。他方、インド洋海域世界を中心に、主に交易・国際商業・商人の観点からの研究はあるものの、各地にアルメニア教会やアルメニア人街が残るなか、移住先の個々の地域社会や都市社会の中で、人口的にも少数派である彼らがどのように基盤を確立させていったのか、彼らがコミュニティを形成するにあたって当地の政治権力とどのような関係を構築したのか、といった政治的な問題や、さらにはカトリックやイスラームへの改宗者という宗教的な側面については未だ十分な検討は為されていない。またアルメニア人の進出先であるアジア・インド洋海域世界とヨーロッパ・地中海世界では何が異なるのか、といったグローバルな視点からの問題は看過されている。

2. 研究の目的

本研究は、「アルメニア人」という政治的・宗教的マイノリティを対象に、近世期（16～18世紀）のユーラシア各地に彼らが張り巡らせた宗教的・商業的ネットワークの実態と、彼らの各地への進出および各地での拠点形成を可能にした政治的・社会的背景を、アルメニア語文書や各地域の行政文書、墓碑銘を用いて実証的に検討するものである。アルメニア人はイランのイスファハーンを中心に主に商人として活躍したが、各地の拠点にはアルメニア教会を中心とした独自のコミュニティを建設し、自身の信仰とアイデンティティを維持しながら集住した。アルメニア人を通じて、多様な人々が交錯した「ユーラシアの近世」という時代的特徴と、地域社会と外来者との関係、および近代移行期のユーラシアに広く見られた社会的変容を考察する。

3. 研究の方法

代表者・分担者・研究協力者の計5名が中心となり、ユーラシア全域を視野に入れつつ、それぞれが専門とする地域や言語をもとに分担して研究・分析を進める。対象とする史料は、各地のアルメニア教会に残るアルメニア語文書史料、各地域の行政文書（ペルシア語、オスマン語、ハンガリー語など）、イギリス・オランダ両東インド会社文書（英語、オランダ語）等であり、これらを網羅的に収集した上で実証的に検討する。また、近世期にアルメニア人コミュニティが形成された都市を選定し、都市内のアルメニア教会やアルメニア人墓地のフィールド調査を行う。分析結果は、海外研究協力者とともに研究会や国際ワークショップを通じて全員で検討し、相互の情報を関連させてさらに深化させる。最終的には英語および日本語での論文集を出版し、成果を国内外に発信する。

4. 研究成果

5年間にわたる研究期間において、アルメニア、ハンガリー、トルコ、イラン、イタリア、レバノンなど、近世期のアルメニア人コミュニティや史料が残る地域で調査を行うことができたが、後半の3年間は、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延のため、とりわけ2020年3月に予定していたトランシルヴァニア調査が中止になるなど、現地調査を遂行できず、研究の進展に大幅な遅れが認められた。しかし、最終的には、当初の研究計画どおりに、2021年にオンラインで開催された国際会議にてパネル・シンポジウム報告を行い、同シンポジウムをもとに、英文学術雑誌 *Acta Asiatica* (Vol. 123, 2022) にて特集 “Armenian Merchants and Their Communities in Early Modern Eurasia” を組み、国際的な研究成果として刊行することができた。以下、それぞれについて詳述する。

(1) 国際会議でのパネル・シンポジウム

2021年5月15日に開催された 65th International Conference of Eastern Studies (第65

回国際東方学会議 (ICES65) にて、パネル・シンポジウム：“Armenian Communities and Their Global Network from the Seventeenth to the Early Twentieth Centuries” (17世紀から20世紀初頭のアルメニア人コミュニティと彼らのグローバル・ネットワーク) を、守川が代表となって企画した。このパネル・シンポジウムでは、本研究メンバーの5名(守川知子・上野雅由樹・秋山晋吾・島田竜登・吉村貴之)とゲスト・スピーカーの Kristine Kostikyan 氏(マテナダラン国立文書館)が、17~20世紀初頭のアルメニア人がユーラシア各地に張り巡らせた商業ネットワークおよびそのコミュニティについて、様々な地域や角度から検討した。具体的には、アルメニア人が拠点としたイラン・イスファハーンの新ジュルファー街区、アルメニア本土、東欧のトランシルヴァニア、イスタンブール、インド・東南アジアのインド洋海域世界、そして日本に移住したアルメニア人のアブガリヤン家が対象とされた。アルメニア人を通じて、近世から近代にかけての地域社会と外来者との関係、および「アジア」「ヨーロッパ」という二項対立では捉えられない近代移行期の社会変容を考察することが主眼であった。この ICES65 会議は、コロナ禍でのオンライン開催であり、最初の企画段階で予定していた海外(スペインおよびアメリカ合衆国)からの研究者2名の招聘がかなわないなど大きな制約のもとではあったが、東欧、トルコ、アルメニア、イラン、ベンガル湾、日本というそれぞれの地域のアルメニア人の活動について、種々の言語による一次史料を豊富に用いた実証的な研究報告が出され、また、フロアとの議論も活発に行われた。同会議は、近世世界のアルメニア人研究に、大いに手ごたえを感じるものであった(会議の報告要旨は、*Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, No. LXV, 2021, pp. 148-152 参照)。

(2) 英文学術雑誌 *Acta Asiatica* (Vol. 123) での特集

ICES65 会議での口頭報告をもとに、*Acta Asiatica* の特集号 “Armenian Merchants and Their Communities in Early Modern Eurasia” (近世ユーラシアにおけるアルメニア人商人と彼らのコミュニティ) を 2022 年 8 月に刊行した。所収論文は以下のとおりである。

1. AKIYAMA Shingo 秋山晋吾 “From Moldova to Vienna: The Commercial Activities of Armenian Merchants in Transylvania in the Early Nineteenth Century as Seen from Documents of the *Compagnia* of Szepviz (Frumoasa)”
2. Kristine Kostikyan “Armenian Merchants in Armenia in the Early Modern Period”
3. MORIKAWA Tomoko 守川知子 “An Armenian Merchant Who Became a Muslim: International Trade and Religious Identity in the Early Modern World”
4. SHIMADA Ryūto 島田竜登 “The Bay of Bengal Trade in the Late Seventeenth Century and Armenian Merchants”
5. ŌKUBO Shōhei 大久保翔平 “An Armenian Opium Revenue Farmer in Java: His Business Partnerships with British and Chinese Entrepreneurs under the Dutch Colonial Regime, ca. 1820-1835”

西から順に、トランシルヴァニア、アルメニア、イラン、ベンガル湾、ジャワ島での広い地域を対象に、近世期のアルメニア人商人の活動について多言語による様々な一次史料を用いて実証的に論じた本特集号から明らかになることは、アルメニア人が各地で、決して単独で、もしくはアルメニア人としての民族的な紐帯のみを頼ってネットワークを構築したわけではなく、セーケイ人やモルドヴァ商人、イラン人(ペルシア人)、イギリス東インド会社、華人など、地元の人々や、他の‘民族’や‘会社’が構築した交易ネットワークを利用し、協力関係を構築しながら、巧みに渡り歩き、財を成していったという事実である。すなわち、従来の「ディアスポラ」研究に見られるような消極的な移住ではなく、(もちろんやむを得なかった面もあるとはいえ) 彼ら自身が積極的に世界各地に進出し、在地社会やそこで活動する人々と折り合いをつけながら、地域社会に溶け込んでいったのである。この点こそが、本特集号、ひいては本研究課題の最大の成果であり、「近世期のアルメニア人」について、マルチ・リングルの実証的な分析から新たな指標を提示したことにより、近世期のアルメニア人に関する研究はもとより、グローバル・ヒストリーや各地の地域研究に一石を投じたといえることができる。

(3) 今後の展望

2023 年度中には、『アルメニア人の時代：近世グローバル・ネットワークと地域社会』(仮) と題する一般向けの日本語論文集を明石出版より刊行する予定であり、日本国内に向けても本研究成果を還元していきたいと考えている。同書は、地図や年表、文献案内等を付す予定であり、初学者をはじめ広く役立つ本づくりを目指している。

また、本研究課題の遂行中に、アルメニアのマテナダラン国立文書館の Kristine Kostikyan 氏、およびアルメニア国立科学アカデミー東洋学研究所の Gor Margaryan 氏との知己を得、両氏が主導する国際共同研究 “The Caucasus on the Crossroads of International Trade and Cultural Exchanges” に守川が参画することになった。その一環として、2023 年 8 月にオランダのライデン大学で開催予定の国際会議 ECIS 10 では、“Armenian Merchants and Iran in the 15th-18th Centuries” と題するパネルを Kostikyan 氏と守川が共同で企画・報告する予定である(採択決定済み)。また、守川が中心となって企画した欧文の学術雑誌 *Orient* の第 60 号の特集号 “Armenians in ‘Orient’” も採択が決定している(2025 年 3 月刊行予定)。

以上のように、実証研究に基づく本研究成果は「近世アルメニア人研究」の国内外での発展に大きく寄与するとともに、今後の国際協働を牽引するプラットフォームとなるであろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tomoko Morikawa	4. 巻 123
2. 論文標題 Introduction: Armenian Merchants and Their Communities in Early Modern Eurasia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Asiatica (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)	6. 最初と最後の頁 iii-viii
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Morikawa	4. 巻 123
2. 論文標題 An Armenian Merchant Who Became a Muslim: International Trade and Religious Identity in the Early Modern World	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Asiatica (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shingo Akiyama	4. 巻 123
2. 論文標題 From Moldova to Vienna: The Commercial Activities of Armenian Merchants in Transylvania in the Early Nineteenth Century as Seen from Documents of the Compagnia of Szepviz (Frumoasa)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Asiatica (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 123
2. 論文標題 The Bay of Bengal Trade in the Late Seventeenth Century and Armenian Merchants	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Asiatica (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)	6. 最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masayuki Ueno	4. 巻 54 (2)
2. 論文標題 In Pursuit of Laicized Urban Administration: The Muhtar System in Istanbul and Ottoman Attitudes toward Non-Muslim Religious Authorities in the Nineteenth Century	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Middle East Studies	6. 最初と最後の頁 302-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Morikawa	4. 巻 65
2. 論文標題 Symposium III: Armenian Communities and Their Global Network from the Seventeenth to the Early Twentieth Centuries	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transactions of the International Conference of Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 148-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Morikawa	4. 巻 117
2. 論文標題 The Study of West Asian History in Japan: A Historical Review and Recent Developments	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acta Asiatica (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)	6. 最初と最後の頁 63-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守川知子	4. 巻 1
2. 論文標題 近世イランの王都の中のキャラバンサライ: 『イスファハーンのキャラバンサライ案内』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新学術領域研究『都市文明の本質 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2』研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 207-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuto Shimada	4. 巻 -
2. 論文標題 South Asian Settlers at Batavia in the Seventeenth and Eighteenth Centuries	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Rifa Mukherjee and Radhika Seshan (eds.), Indian Ocean Histories: The Many Worlds of Michael Naylor Pearson	6. 最初と最後の頁 124-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 守川知子	4. 巻 2018
2. 論文標題 近世西アジア社会における「異教徒」と宗教的社会変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2018年度大学研究助成 アジア歴史研究報告書	6. 最初と最後の頁 135-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守川知子	4. 巻 1
2. 論文標題 サファヴィー朝下のイスファハーンと新ジュルファー：近世西アジア都市の非ムスリム街区	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市文明の本質 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 1	6. 最初と最後の頁 163-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守川知子	4. 巻 34
2. 論文標題 移葬の心性史：シーア派イスラーム社会における死者の聖地巡礼	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較文明	6. 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masayuki Ueno	4. 巻 76
2. 論文標題 Empire as a Career: Hagop Grjigian or an Armenian in the Ottoman Bureaucracy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko	6. 最初と最後の頁 57-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎巖・秋山晋吾	4. 巻 9
2. 論文標題 史料としてのハプスブルク君主国『軍人職階表』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 一橋社会科学	6. 最初と最後の頁 24-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎巖・秋山晋吾	4. 巻 9
2. 論文標題 史料としてのハプスブルク君主国『軍人職階表』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 一橋社会科学	6. 最初と最後の頁 24-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 From Yerevan to New Julfa of Isfahan Armenian Commercial Networks under the Safavid Empire
3. 学会等名 International Scientific Conference: The Caucasus on the Crossroads of International Trade and Cultural Exchanges (from ancient times to the modern period) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 Non-Muslim Minorities and a Shi'ite Empire: Armenians and Jews in Safavid Persia
3. 学会等名 Sixth European Congress on World and Global History: Minorities, Cultures of Integration, and Patterns of Exclusion (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 An Armenian Merchant Family from New Julfa in Isfahan under the Safavid Empire: A Case Study of the Valijanlian Family
3. 学会等名 65th International Conference of Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shingo Akiyama
2. 発表標題 Across the Carpathian Mountains: Transylvanian Armenians and Moldova in the 18th-19th Centuries
3. 学会等名 65th International Conference of Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masayuki Ueno
2. 発表標題 Cooperation Against the "Religion of the Pope": The Ottoman Empire and the Armenian Patriarchs of Istanbul in the Eighteenth Century
3. 学会等名 65th International Conference of Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Persian, Armenian, and Dutch Merchants in the Trade between India and Siam during the Early Modern Period
3. 学会等名 65th International Conference of Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takayuki Yoshimura
2. 発表標題 The Abgariyan Family in Japan between the Two World Wars
3. 学会等名 65th International Conference of Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上野雅由樹
2. 発表標題 19世紀オスマン帝国の都市社会史：多宗教多宗派都市イスタンブルにおける教区とムフタル制
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会4月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 Intermediary Agents Between Europe and Iran: Armenian Merchants in the 17th Century
3. 学会等名 International Conference on Safavid Studies: Cultural Relations of Iran and Europe in the Safavid era (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 From New Julfa of Isfahan to the World: Armenian Trade Network and a Non-Muslim Quarter in a Capital City
3. 学会等名 International Workshop: "Network and Urban Landscape in Historical Perspective" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 Abgar Valijanlian and his Life as a Jadid al-Islam: A Shi'ite Armenian in the late seventeenth century
3. 学会等名 Ninth European Conference of Iranian Studies (ECIS9) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 守川知子
2. 発表標題 「ジャディード・アル=イスラーム (Jadid al-Islam)」として生きたあるアルメニア人改宗者の生涯 個人・家族・国家と近世西アジアの宗教マイノリティ
3. 学会等名 第295回北大東洋史談話会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masayuki Ueno
2. 発表標題 More Than Tax Farmers: The Armenian Patriarchs of Istanbul in the Seventeenth and Eighteenth Centuries
3. 学会等名 Great Lakes Ottomanist Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上野雅由樹
2. 発表標題 19世紀イスタンブルの都市改革と墓地接収
3. 学会等名 周縁的社会集団と近代第21回セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 An Armenian Merchant Family from New Julfa in the Seventeenth and Early Eighteenth Centuries
3. 学会等名 International Workshop: Maritime Monsoon Asia in the Early Modern Period: Global Trade and Early European Colonial Cities (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 守川知子
2. 発表標題 17世紀後半のアルメニア人ネットワーク：二人の商人の軌跡から
3. 学会等名 近世ユーラシアにおける宗教・交易ネットワークとアルメニア人
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野雅由樹
2. 発表標題 19世紀末の特権問題とオスマン・アルメニア人
3. 学会等名 近世ユーラシアにおける宗教・交易ネットワークとアルメニア人
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 守川知子
2. 発表標題 異邦人・異教徒として生きる：近世世界を旅したアルメニア人改宗ムスリム
3. 学会等名 2018年度朝日講座「居場所」の未来（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Morikawa
2. 発表標題 Muhammad Rabi ' b. Muhammad Ibrahim: A Muslim Traveller to the Theravada Buddhist Society
3. 学会等名 International Workshop on Trades, Migration, Belief: Crossing Early Modern Asia, 16th-18th Centuries (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuto Shimada
2. 発表標題 Japanese Views of India and the World during the Early Modern Period
3. 学会等名 International Workshop on Trades, Migration, Belief: Crossing Early Modern Asia, 16th-18th Centuries (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 守川知子
2. 発表標題 近世西アジア社会における「異教徒」と宗教的社会変容
3. 学会等名 シンポジウム：歴史の智慧をどう活かすか？ 21世紀の日本がアジアと共生をめざすための歴史研究（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 守川知子
2. 発表標題 改宗者と17世紀の西アジア社会
3. 学会等名 第72回羽田記念館定例講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 八木 久美子、守川知子（分担執筆：「巡礼・参詣（イラン）」「異教徒との関係（イラン）」）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 林 佳世子（責任編集）、上野雅由樹（分担執筆：近世のオスマン社会）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 西アジア・南アジアの帝国 16～18世紀	

1. 著者名 小川 幸司（責任編集）、島田竜登（編集協力）、守川知子（分担執筆：宗派化する世界 宗教・国家・民衆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 構造化される世界 14～19世紀	

1. 著者名 Rila Mukherjee, Radhika Seshan, Ryuto Shimada (分担執筆: South Asian settlers at Batavia in the seventeenth and eighteenth centuries)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 288
3. 書名 Indian Ocean Histories The Many Worlds of Michael Naylor Pearson	

1. 著者名 南塚 信吾、小谷 汪之、秋山晋吾 (分担執筆: 第3章 史料から歴史へ)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 歴史的に考えるとはどういうことか	

1. 著者名 島田 竜登、守川知子 (分担執筆: あるアルメニア人改宗者の遍歴にみる宗教と近世社会)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 292
3. 書名 1683年 近世世界の変容	

1. 著者名 秋山 晋吾	4. 発行年 2018年
2. 出版社 星海社	5. 総ページ数 288
3. 書名 姦通裁判: 18世紀トランシルヴァニアの村の世界	

1. 著者名 島田 竜登	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 300
3. 書名 1789年 自由を求める時代	

1. 著者名 弘末雅士、守川知子（分担執筆：西アジアのキャラバン・ルートと巡礼者）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 356
3. 書名 海と陸の織りなす世界史 港市と内陸社会	

1. 著者名 羽場 久美子、秋山晋吾（分担執筆：三分割の時代からハブスブルクの時代へ：混乱と豊穡の近世）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 372
3. 書名 ハンガリーを知るための60章【第2版】	

1. 著者名 柴田 大輔、中町 信孝、上野雅由樹（分担執筆：オスマン帝国：宗教概念と政教関係）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 イスラームは特殊か	

1. 著者名 島田 竜登、水島 司	4. 発行年 2018年
2. 出版社 放送大学教育振興会;NHK出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 グローバル経済史	

1. 著者名 三代川 寛子、上野雅由樹（分担執筆：第14章 アルメニア教会）、吉村貴之（分担執筆：第12章1 アルメニア使徒教会について）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 608
3. 書名 東方キリスト教諸教会：研究案内と基礎データ	

1. 著者名 川分 圭子、玉木 俊明、島田竜登（分担執筆：ケンベルとシャム：一七 世紀末のタイ・アユッタヤー朝の一断面）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 897
3. 書名 商業と異文化の接触：中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開	

1. 著者名 羽田 正、島田竜登（分担執筆：史上初のグローバルカンパニーとしてのオランダ東インド会社）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 336
3. 書名 グローバル・ヒストリーの可能性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	秋山 晋吾 (Akiyama Shingo) (50466421)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	上野 雅由樹 (Ueno Masayuki) (10709538)	大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授 (24402)	
研究分担者	島田 竜登 (Shimada Ryuto) (80435106)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	吉村 貴之 (Yoshimura Takayuki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 65th International Conference of Eastern Studies	開催年 2021年～2021年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
アルメニア	マテナダラン国立文書館	国立科学アカデミー東洋学研究所	